

第九篇 治安と消防



出初め式の一斉放水

第一章 治安

第一節 警察官駐在所の沿革……………三三五

第二節 防犯対策……………三三六

第三節 交通安全対策……………三三八

第二章 消防

第一節 美川村消防団の発足……………三四〇

第二節 消防装備施設の現況……………三四〇

第一章 治 安

第一節 警察官駐在所の沿革

一、御三戸警察官駐在所



御三戸警察官駐在所

1、従来弘形村巡查駐在所として上黒岩久主ノ下にあつたが、美川村となつて、御三戸警察官駐在所と改称し、昭和四六年一月二一日、現在の場所に新築移転したものである。
 2、美川村発足以来の歴代駐在警察官は次のとおりである。

赴任年月日 氏 名 赴任年月日 氏 名

- | | | | |
|----------|-------|---------|-------|
| 二七、一二、二三 | 竹崎 猶衛 | 四〇、八、二五 | 越智 博 |
| 三四、三、三一 | 堀内 幸吉 | 四二、四、一 | 石谷 慧 |
| 三六、四、一 | 泉 管市 | 四四、四、一 | 藤本 武敏 |
| 三八、六、一七 | 川端 鴨夫 | 四五、四、一 | 森 長久 |
| 四〇、四、一 | 越智 博 | 四八、四、一 | 池内 勝 |
| 四〇、七、一五 | 祖母井尊憲 | 四九、四、一 | 谷口 卓 |

二、仕七川警察官駐在所



仕七川警察官駐在所

1、従来仕七川村巡查駐在所として西古味にあつたが、美川村となつて仕七川警察官駐在所と改称し、昭和四五年三月二六日現在の東古味に新築移転したものである。
 2、美川村発足以来の歴代駐在警察官は次のとおりである。

赴任年月日 氏 名

赴任年月日

氏 名

- 二九、 九、一五 真鍋正博 四三、一、二 森田幸弘
- 三四、 三、三一 竹崎猶衛 四四、 四、 一 浅川正寿
- 三七、 四、 一 松下泰明 四六、 三、二三 石谷 慧
- 四〇、 四、 一 宮岡国昭 四八、 四、 一 松井現儀
- 四〇、一〇、 一 足立重明 四九、 八、二一 渡部 博
- 四二、 四、 一 森川福松

三、黒藤川警察官駐在所

1、従来中津村には中津巡查駐在所と久主巡查駐在所の二つがあつて分担駐在していたが、中津村が分割されて美川村と柳谷村に合され、久主巡查駐在所は廃止された。

中津巡查



黒藤川警察官駐在所

駐在所は美川村に統合されて、黒藤川警察官駐在所と改称し、従来

のとおり黒藤川中組に在つたが、昭和三八年五月二五日従来の場所に新築したものである。

2、美川村発足以来の歴代駐在警察官は次のとおりである。

赴任年月日 氏 名 赴任年月日 氏 名

- 二七、 三、一九 平田 国一 四四、 八、二五 村上 清次
- 三〇、一〇、二〇 門田 文雄 四五、 四、 二 森 長久
- 三二、 二、 八 楠本 平八 四六、 五、一四 三好 靖夫
- 三三、 四、 二 米盛 進 四八、 四、 一 徳森 上幸
- 三六、 四、 一 祖母井尊憲 四八、 八、二四 山内 国男
- 四一、 八、 七 河原 泰典

第二節 防 犯 对 策

終戦後、社会の複雑化により刑法犯が年毎に増加し、昭和三八年には一日平均七〇件と云う増加の傾向となり、警察では、「犯罪0の日」などの実践活動を通じ「犯罪をなくし、社会を明るくする」幅広い活動により、暴力犯罪や盗犯の防止運動をつづけて来た。

これらの犯罪防止は、地域社会住民全体の任務と責任で

犯罪統計

年 度	久万署管内	美川村内	備 考
三四	五九五		交通事故犯を含む
三五	五一三		"
三六	五二二		"
三七	三八五		"
三八	一七七		交通事故犯を除く
三九	二九〇		"
四〇	一八〇		"
四一	一九八		"
四二	一七六	三〇	"
四三	二三六	三五	"
四四	一九四	三四	"
四五	一六八	二七	"
四六	一五一		"
四七	一九九	二五	"
四八	一二六	一一	"

あることから、全県的に防犯団体が結成されることとなり、本村には美川村防犯対策協議会が結成され、「暴力の

追放」「少年の非行防止」「盗犯の予防」についてあらゆる部門ごとに協議し、いちじるしい実績をあげた。

昭和四〇年一月、この問題については今や研究・協議の時代ではなく実践の時代だとして、美川村防犯対策協議会を発展的解消し、美川村防犯協会を設立した。この防犯協会は住民の任意的・自発的に燃えあがって結成された団体であり、警察の行なう防犯活動とは、おのずからその角度も異り、防犯協会の行なう防犯活動と、警察が行なう防犯活動とが車の両輪のようにお互いに緊密な連繋のもとに、美川村民一人一人が地域毎における犯罪予防についての問題を、自ら発見して自らの手で解決して行こうとする団体である。

以後、本村消防団、婦人会、少年補導団体、商業団体その他の関係団体機関の協力により実績をあげて来た。特に、「青少年の非行防止」については、村内各小中学校の協力のもとに、少年補導部長による柔剣道の指導があり、年間数回の大会に出場し優秀な成績をおさめ、郡内はもとより県内にも知られる実績をあげている。

昭和四八年一〇月、本村の防犯相談所長五名を一一一名に

増加し、犯罪のない明るい村づくりを推進している。

第三節 交通安全対策

車両交通の急激な増加に伴ない、交通安全行政が特に重要となった。昭和三八年六月に地方自治法の一部改正が行なわれ、「交通安全の保持」が明示された。

県および市町村においても、この法の一部改正によって



交通安全に協力

今後、より一層の事務の充実強化が要請され、交通事故のない新しい村づくり町づくりのために、関係行政機関・団体が一体となって緊密な連絡のもとに総合的な諸施策を強力に推進することとなり、県民総ぐるみで交通事故防止運動が展開され、県には、「愛媛県交

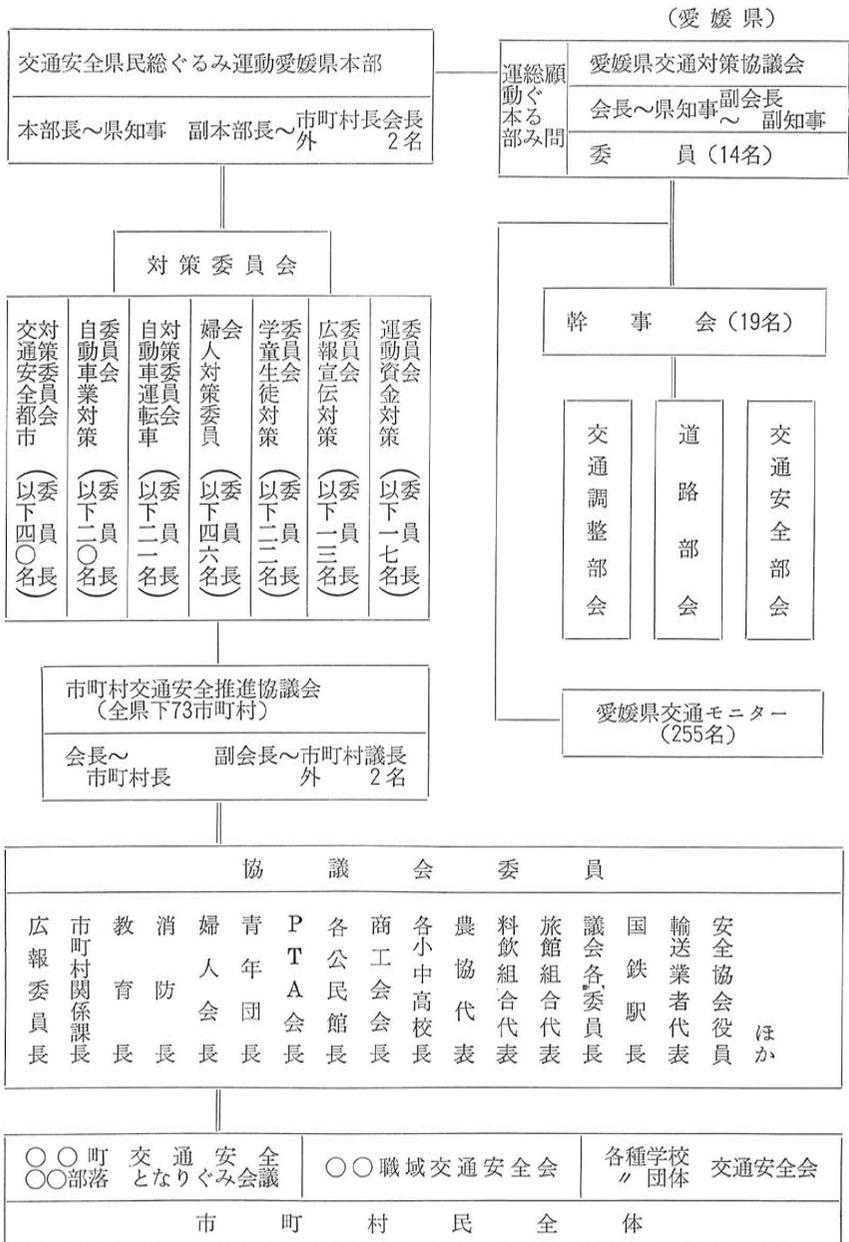
交通事故統計

年度	久万署管内			美川村内		
	発生件数	死者数	傷者数	発生件数	死者数	傷者数
三九	四三	三	五八	一		
四〇	三七	四	六〇	一		
四一	七〇	八	九〇			
四二	八三	一三	一二八	一七	四	三〇
四三	一〇一	三	一四八	二三		三〇
四四	一〇二	四	一五六	一七		三二
四五	六八	三	一二九	一七	二	三二
四六	七五	四	一五〇	一六	三	三二
四七	九〇	八	一五一	一七	一	四四
四八	八一	八	一三六	一〇		一七

通対策協議会」を結成するなど、本県における推進組織体制が出来た。

美川村においても、昭和四〇年四月に条例を制定して「美川村交通安全推進協議会」を設置し、協議会委員三二名の外、交通指導員六名の協力を得て、この運動を強力に

交通安全県民運動組織体系図





安全交通の呼びかけ

推進している。

協力団体として、県には愛媛県交通安全協会があり、郡には上浮穴交通安全協会、村には上浮穴交通安全協会美川支部があつて、支部長を中心とした各役員並びに会員の日夜絶ゆまない努力により美川村の交通安全の保持がなされている。春秋

二回の交通安全週間には国道三三三号線の路上に「交通茶屋」を設け、通行のすべての車にお茶の接待をして、交通安全を呼びかけている。

第二章 消防

第一節 美川村消防団の発足

昭和三〇年町村合併により、仕七川村消防団・弘形村消防団・中津村消防団が旧村当時の現有力をそのまま結集して美川村消防団と改名、村長の指揮下に入り団員四六一名を以て発足した。

この組織に団長一名、副団長二名、分団長三名、部長一四名、各部に班長四名を置くこととし、初代団長に旧中津村消防団長であつた谷昌美、副団長に旧仕七川消防団長黒川末千夫、旧弘形消防団長の高橋堅志の三名がそれぞれ就任した。分団編成については旧村単位に分団制をしき、旧弘形消防団を第一分団、旧仕七川消防団を第二分団、旧中津消防団を第三分団として強固な自治体消防の組織を編成し、任務遂行に邁進することとなつた。

第二節 消防装備施設の現況

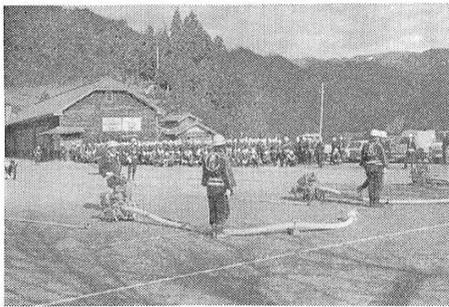
時代の進展にともない、戦前から活用されてきた腕用ポンプに替って昭和二五年頃から「消防機械化のはじまり」とも言うべき小型動力ガソリンポンプが普及しはじめ、順次各各班に購入されて来た。昭和三五年頃までにはほとんど各各班に動力ポンプを備え、また貯水槽など国・県およ

分 団	本 部	第1分団	第2分団	第3分団	合 計
団 員 数	10	110	165	115	400人
動力ポンプ 動台数	1	7	12	8	28台

び村の補助金によって施設を整えた。当時の消防勢力は表に示す通りであるが、合併後五ヶ年にして装備も充実し、その後の火災消防に威力を發揮した。

消防水利施設については、旧来各地に管理されている貯水槽は腕用ポンプ時代の少量の貯水池であって可搬動力ポンプの水源としては活動能力がななく、施設整備計画を樹立して大型水槽の新設・改修に努力を重ねた。大火災に対処するためには無限の自然水利に優るものはない。幹部会に於いて地域の意見を徴して河川水の利用を行うよう指導し、河川進入路標識を掲示して非常に際して遺憾のないように整備を計るなど、限られた人員で施設および機械器具を満度に活用して最大の効果を挙げるように萬全を期している。被服については昭和三九年に第一分団、昭和四〇年第二分団、

昭和四一年第三分団と三ヶ年計画で全員の被服（ハッピ）を新調、昭和四四年度に於いては保安帽（ヘルメット）を購入して全員に支給した。なお昭和四四年度に於いて過疎現象のため団員確保がむづかしくなったため、昭和三四年以来の団員の定数四〇〇名以内を三二八名以内に改正すると共に、その年令も従来は一八歳以上四五歳までであったのを一八歳以上に改めた。



可搬動力ポンプ操法

消防団の年間における行事は、新年早々に出初式、春の火災予防週間、秋の火災予防週間、防火デー行事、年末警戒、非常災害の出勤、教育訓練、幹部会および幹部講習会などである。昭和三二年からは毎年一回、県および上浮穴郡連合会主催による消防操法大会が開催されることとなり、以後各分団から一チーム宛選手を

出勤させて消火訓練技術の習熟を期している。

美川村消防団発足以来二〇年、消防施設は整備し、消防幹部の指揮能力の高揚と、団員の教育訓練にはげみ、有時即応の人的態勢も完備されて来た。今や交通通信網の態勢

完備にともない、国を挙げて消防常備化が叫ばれており、上浮穴郡においても郡内共同で全域の治安維持に対処し、交通事故・水火災・そのほか緊急事態に応ずるべく、常設消防署設置の気運に至っている。

消防勢力配置状況

配置	ポンプ	積載車	ポンプ数	団員数	第一分団				第二分団				第三分団				本部	計	合計
					一部	二部	三部	四部	計	一部	二部	三部	四部	計	一部	二部			
梨下程野	中大川 下有枝本 村		2	25															
	内分尾 具		3	22															
	中黒岩		1	22															
	沢渡		2	20															
			8	89															
筒城仕出竹谷横山	みの川 西古味 長瀬 東古味 (一)(二)		2	19															
	七鳥		3	27															
	東川		3	15															
			3	24															
	水押		1	19															
	中村		2	20															
			14	124															
本組栄重上組長崎	大谷藤 社黒藤川 二笠		2	24															
	成中組		3	25															
			2	25															
			2	22															
			9	96															
	役場		1	15															
			1	15															
			1	324															

第2章 消 防

美川村歴代消防団幹部名簿

団 長

昭和三〇、四、一	昭和三〇、四、一	氏名
就任年月日	退任年月日	
谷 昌美	三〇、四、一	氏名
就任年月日	退任年月日	
黒川未千夫	三五、三、三一	氏名
就任年月日	退任年月日	
高橋 堅志	三八、六、三〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
大野 清一		氏名
就任年月日	退任年月日	

副 団 長

昭和三〇、四、一	昭和三四、二、一〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
黒川未千夫	三四、二、一〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
高橋 堅志	三五、三、三一	氏名
就任年月日	退任年月日	
伊藤 忠興	三七、一二、一五	氏名
就任年月日	退任年月日	
後藤 盈夫	三八、七、一〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
岡田 隆信	三九、三、一七	氏名
就任年月日	退任年月日	
川井 方	四一、六、三〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
坂本 孟	四七、六、三〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
吉田 石喜		氏名
就任年月日	退任年月日	

第二「分」団

分 団 長

昭和三〇、四、一	昭和三三、八、三一	氏名
就任年月日	退任年月日	
梅木 春美	三三、八、三一	氏名
就任年月日	退任年月日	
伊藤 忠興	三五、四、二七	氏名
就任年月日	退任年月日	
古谷 文雄	三七、九、一	氏名
就任年月日	退任年月日	
片岡 茂夫	三八、三、三一	氏名
就任年月日	退任年月日	
西山 幸雄	四五、一、三一	氏名
就任年月日	退任年月日	
吉田 石喜	四七、六、三〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
水口 昌平		氏名
就任年月日	退任年月日	

副 分 団 長

昭和三〇、四、一	昭和三四、一、一〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
正岡 剛	三四、一、一〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
水口 昌平	四七、六、三〇	氏名
就任年月日	退任年月日	
丹波 松清		氏名
就任年月日	退任年月日	

第二分団

副分団長		分団長	
昭 和 四〇、 四、一	就任年月日	昭 和 三〇、 四、一	就任年月日
昭 和 四三、 八、九	退任年月日	昭 和 三四、 八、三一	退任年月日
昭 和 四八、 一一、 二〇	氏名	昭 和 四三、 八、八	氏名
坂本幸正		坂本幸正	
寺岡忠良		川井清一	
坂口鶴男		中家満春	
		渡部繁行	
		大野清一	
		川井清一	
		中家満春	
		坂本幸正	

第三分団

副分団長		分団長	
昭 和 四〇、 四、一	就任年月日	昭 和 三〇、 四、一	就任年月日
昭 和 四一、 六、三〇	退任年月日	昭 和 三七、 一、一四	退任年月日
昭 和 四六、 八、二四	氏名	昭 和 四一、 七、一	氏名
久保要		四六、 一、一二	
天野輝雄		四一、 七、一	
亀井忠男		四一、 七、一五	
		三八、 七、一五	
		三七、 一、一五	
		三一、 四、一	
		三〇、 四、一	
		三三、 三、三一	
		三七、 一、一四	
		三八、 七、一四	
		四一、 六、三〇	
		四六、 一、一一	
		天野輝雄	
		亀井忠男	
		坂本孟	
		岡田隆信	
		後藤盈夫	
		大野正美	